Aspidium Dickinsii FRANCH. ET SAV. ノ新學名ヲ世上ニ發表セラレシモノニシテ其原標本ハ伊豆熱海ニ產セシモノナリ後 BAKER 氏アリテ其學名ヲ Nephrodium Dickinsii BAKER. ト變更シ今日ハ Dryopteris Dickinsii C. CHR. ト稱スルニ至レリ而シテ和名おほくじゃくしだハ明治三十一年ニ始メテ牧野氏ノ命ズル所ニシテ即チ同年三月發行ノ植物學雜誌第十二卷第百三十三號ニ揭載シ且ツ『……此三種〔いはへご、たにへご、おほくじゃくしだ〕中いはへご及ビおほくじゃくしだノ兩種ハ形相互ニ相類シ其系藉極メテ遠カラズ而シテおほくじゃくしだ之ヲいはへごニ比スレバ頗ル稀少ノ品種ニ屬ス相州箱根及ビ土佐橫倉山ニ之レヲ產セリ』ナル牧野氏ノ文アリ松村博士ノ植物名鑑ニヨレバ「箱根、熱海、土佐」ニ產スト明記シアルガ此箱根並ニ土佐ノ兩產地ハ蓋シ上ノ牧野氏ニ據ラレタルモノナラン此ノ如ク本品ガ箱根ニ產スル事ハ敢テ新事實ニアラズトスルモ然モ余ハ前後十數回ノ同山旅行ニ於テ今回始メテ之レニ逢着シタルガ故ニ余ニ取リテハ誠ニ珍ニ感ズルナリ

超エテ同月十八日雨景ヲ賞シテ蘆ノ湖畔ニ過ギル時ニ權現社頭ノはこね竹叢中偶然赭色ノ一羊齒ノ生ズルアルヲ認メタリ採リテ之ヲ觀ルニ曾テ本誌ノ第二號ニ於テ牧野主筆ノ發表セラレタルあかはなわらび (Botrychium nipponicum MAKINO.) ナリ此ニ於テ我ガ箱根ハ實ニ世界ニ於ケル本羊齒第二ノ產地トナル而シテ其原產地ハ埼玉縣膝折村ナリ

○「バイブル」ノ植物（其二）（本誌第三號ヲ承ク）

篠崎信四郎

○創世記三ノ七、是において彼等ノ目俱に開て彼等其裸體なるを知り乃ち無花果樹の葉を綴て裳を作れり、漢譯ニヨレバ二人目明自知裸體遂編蕉葉爲裳トアリ、いちぢくノ葉ヲ正シトナス裳ハ腰ヨリ下ヲ蔽フモノニシテ此場合ニテハ單ニ腰部ニ纏フ物ヲ指シタルナルベシ而シテアダム、エバガ其當時裳ヲ作ルニ用ヰシ植物ガ果シ

テ現今吾人ノ呼ブいちぢくナリシヤ否ヤハ疑問ナリト雖ドモ聖經記者ガ特種植物ノ名稱ヲ最初此處ニ明記シタルニ考フレバ如何ニ此植物ガ彼等ト親ミ深カリシカヲ察知スルニ難カラズ而シテいちぢくナル名稱ハ新舊「バイブル」中屢々見ル所ニシテいちぢくノ樹ヲ呼ブニTĕĕnah (Συκῆ) ト稱シ未熟ノ青果ヲPag (ὄλυνθος) 二月頃早ク熟シタル果實ヲBikkûrah (Σκοπός) 又乾シテ貯藏シ得ル熟果ヲDĕbêlah (παλάθη) ト名ヅク括弧内ハギリシャ語、前者ハヘブル語ナリ而シテ以賽亞書三八ノ二一、イザヤいへらく無花果の一團をとりきたりて腫物のうへにつけよ王かならずいえん、ト藥用ニ供スル事ヲ記セリ是ニヨリテ觀ルモいちぢくト「バイブル」トハ關係甚ダ深キヲ知ルベシ

○同六ノ一四、汝松木をもて汝のために方舟を造り方舟の中に房を作り瀝青をもて其内外を塗るべし、コヽニまつト云フ特種植物ヲ明記スルハ飜譯上穩當ナラズノアノ方舟ノ遺物ニ就キ其材ヲ研究シまつノ木ト判定シタル由モ聞カネバ寧ロ松ノ字ヲ削リテ單ニ木若クハ堅キ木ト改ムルカ或ハ原語ノGôpherヲ繼ギテ其名トナスベシ此方舟ノ建造ガ假令現代造船家ニ疑ハルヽトモ歷史的事實ナルニ於テハ其用材ニ就キ文字上ヨリ猥リノ臆測ヲ許スベカラザルナリ

○同書八ノ一一以下諸書ニ於ケル橄欖ハ宜シクおりぶニ改ムベキ物ナリかんらんトおりぶトハ大相違ナリ

○同書一三ノ一八、アブラハム遂に天幕を遷して來りヘブロルのマムレの橡林に住み此處にてヱホバに壇を築けり、ココノ橡林ハ野ノ誤リナルベシ漢譯ニハ幔哩之橡トアリ英譯ニハThe plain of Mamreト見エタリ而シテ同書一八ノ一、ヱホバ、マムレの橡林にてアブラハムに顯現たまへり彼は日の熱き時刻天幕の入口に坐しゐたりしが、同章ノ四、請ふ少許の水を取きたらしめ汝等の足を濯ひて樹の下に休憩たまへトアルニ見レバ是レ橡林中ノ出來事ラシカラザルヲ覺ユ日の熱き時刻即チ午前十時乃至午後二時頃ノ事トハ云ヘ林下ニ住ム人ノ言トシテ樹の下に休憩たまへトハ不合理ノ樣ナリ橡ノ字ヲかしト訓讀スルモ穩カナラズ而シテ余私ニ考フルニ我

ガ橡林ハ漢譯ノ橡ヲ誇張シタルモノナルベク(複數トシテ)橡ハ或ハ plain ト plane トノ誤想ニ因リタルニハアラザルカ(改訂英譯「バイブル」ニハ plane ノ語アレドモ古キモノニハ一モ是ヲ見ズ我「バイブル」ニハ此植物ヲ桑ト誤譯セリ)平野即チ plain ノギリシャ語ハ πλακός 又ハ πλάξ ニシテすずかけのき類即チ plane ノギリシャ語ハ πλάτανος 又ハ πλατάνιστος ナリ同書一二ノ六、アブラハム其地を經過てシケムの處に及びモレの橡樹に至れり其時にカナン人其地に住り、コヽノ橡樹モ英譯ニヨレバ plain トアリサレド或學者ハ上述ノかしのき及びかしばやしヲ總テ是認シ同書三五ノ四、上略ヤコブこれをシケムの邊なる橡樹の下に埋たり、及ビ同章ノ八、時にリベカの乳媼デボラ死たれば之をベテルの下に橡樹の下に葬れり是によりてその樹の名をアロンバクテ(哀哭の橡)といふ、トアルかしのきト同一物視シ説ヲ作ス是レ余ノ解シ得ザル事ナリ後者二節ノ英譯ニハ Oakナル語アリテかし若クハかしは等ニ當レドモ前者ニハ全然是レナシヘブル語「アロンバクテ」ノ「アロン」(Allon)ハ Oak ト英譯シ得ルトモ是ヲかしト邦譯スル事ハ輕卒ニ行フベカラズ古ク Chestnut ト英譯サレタルヘブル語 ʾArmôn ハ今日 plane ト改メラレタリ Allon ト ʾArmôn トハ言語學上近似ノ關係アレバ是非一顧ノ値アルベシ是ヲ要スルニ橡ノ字ヲかしニ當ツルハ全然避クベキ事ニシテ又上述かしのき及ビかしばやしト譯シタル事ニ就キテハ再考ヲ要スベキナリ

○同書二一ノ三三、アブラハムベエルシバに柳を植え云云、ノ柳ハぎょりう屬即チ檉柳屬ノ樹ナルベシ檉柳屬ノ植物ハ眞正ノ柳ノ類ニハアラズシテ全ク別科ノ品ニ屬スヘブル語 Eshel アラビヤ語 Asul ギリシャ語 ἄρουρα ニシテ同屬中ノ Tamarix Pallasii DESV., T. gallica L. 並ニ其他數種ハパレスチンニ生育セリ

○活動的學校園

千葉縣　山田和祐